

「調べて、広めて、市民を守る。」

「たばこの火」ってどんな火？

「火事を知る！」

火災事例

CASE-1

共同住宅の一室で、居住者が布団の上でたばこを吸い、そのまま寝込んでしまったため、たばこの火種が布団の上に落ち、布団が焼けました。

CASE-2

住宅のダイニングキッチンで、居住者がたばこを吸い、ソファで寝込んでしまったため、たばこの火種がソファに落ち、床や天井などが焼けました。



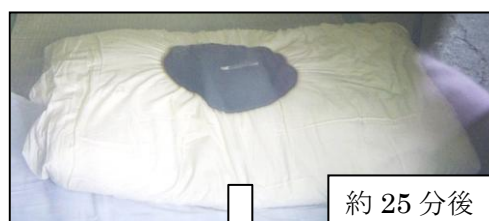
火災になるまで

たばこの火種は、小さいながらも温度は約 700 度～800 度あり、喫煙時には約 1,000 度にもなります。

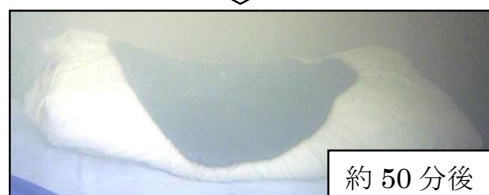
この小さな「たばこの火種」が、綿を素材とする繊維の布団や座布団に落下すると、たばこの下部から炎を上げずに、また、時間をかけてじわじわと燃焼（無炎燃焼）を続けるため、たばこを吸っていた本人は、なかなか気付くことができず、そして気付いた頃には一酸化炭素中毒で動けなくなってしまい重大な事故につながるのです。



「寝たばこ」による再燃実験



約 25 分後



約 50 分後

炎が出ずに煙が多い！

「身を守る！」



たばこの火は、水に濡らすなど、完全に**消火**しましょう！



室内や布団などの上では、くわえたばこをやめましょう！



大阪市消防局 予防課(調査鑑識)
<<<Survey & Investigation>>>